



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	帯広市新産外来種ハイコウリントンポポ <i>Hieracium pilosella</i> L.
Author(s)	持田, 誠
Citation	帯広百年記念館紀要, 30, 11-14
Issue Date	2012
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52706
Type	journal article
File Information	RPT. Obihiro Centennial Mus. 30 11-14.pdf



帯広市新産外来種ハイコウリントンポポ *Hieracium pilosella* L.

A new record of alien species *Hieracium pilosella* L. (Compositae) from Obihiro City, Hokkaido, Japan

持田 誠

Makoto MOCHIDA[※]

帯広市在住の玉井孝明氏によって、2011年夏、百年記念館駐車場に名前のわからないキク科の外来種が生育しているとの相談が持ち込まれた。一帯には既に、この植物が大量に生育していたが、一見、キバナコウリントンポポ *Hieracium caespitosum* Dumor. に花が似ていることから、これまで見過ごされていた。その後、玉井氏の文献調査によって、チシマタンポポ *H. alpinum* L. の可能性が疑われた。そこで、チシマタンポポに関する文献渉猟と共に、本植物の標本を採集して詳細に検討したところ、北海道野生植物研究所の五十嵐博氏の助言を得て、これはチシマタンポポではなく、ハイコウリントンポポ *H. pilosella* L. であることが明らかとなった。本種は比較的新しく定着したと思われる外来種で、現在までに道内数カ所で採集・確認されている（図1）。

帯広市内からの本種の記録はこれまで無かったので、新産外来種として報告する。

形態的・生態的特徴

ハイコウリントンポポは、キク科ヤナギタンポポ属の多年草である（図2）。前述のとおり、形態は一見、キバナコウリントンポポに似る（図3）。しかし、花茎は分岐せず、1茎に1花のみ付ける。花茎は高さ8-20cmで、キバナコウリントンポポほどには伸長しない。全草に毛が多く、花茎には短毛、葉には長毛と軟毛が混生する。特には葉表面に長毛が顕著で、その長さは4-8mmに及ぶ。一方、葉裏は白色軟毛が密生し、葉裏面全体が真っ白く見える（図4）。根生葉は長さ3-7cmのへら形で、ロゼット状に5-9枚が広がり、花期が終了しても残存する。

舌状花は黄色で、レモン色に近い明るい黄色を呈する。頭花の直径は2cm程度。総苞片には黒色の微小突起毛が混じる（図5）。

観察によると、緑ヶ丘公園での開花期は5月下旬から8月上旬で、もっとも開花が旺盛な時期は6-7月である。開花挙動に特徴があり、午前中は開花しているが、午後には花を閉じる。観察によると、花を閉じる時刻は南中時刻に連動しているようである。

大量に種子を生産し、飛散させることから、繁殖力は旺盛と予測される。また、地中に主根を伸ばして定着する他、ストロンを伸ばして増殖する陣地強化型雑草である。北海道ブルーリストには登載されていないが、既に指定されているコウリントンポポ、キバナコウリントンポポと同様の生態であることから（Bishop & Davy, 1994）、今後の飛散拡大が危惧される。

※ 帯広百年記念館学芸調査員

原産地と定着の動向

原産地はヨーロッパで、大西洋沿岸地域を中心に自生している他、北東アジア、北アメリカでも定着している事が知られている (Blamey and Christopher, 1989)。

五十嵐氏によると 2006 年 7 月に遠軽町丸瀬布いこいの森で初めて採集された。以後、苫小牧港、札幌ドームなどで採集が相次ぎ、十勝圏では 2011 年に幕別町からも確認されている (五十嵐氏私信)。帯広市内では、緑ヶ丘公園の百年記念館駐車場内法面で既に群生している他、柏林台付近など市内数カ所の歩道上草地などで散見される。

英名は Mouse-ear Hawkweed で、葉の形状を鼠の耳に見立てたものであり、Hawkweed はヤナギタンポポ類全般の総称である。従来、我が国での報告は無く、帰化植物図鑑等へも掲載されていない (五十嵐, 2001 ; 清水, 2003 ; 太刀掛・中村, 2007)。新規外来種で和名が存在しなかった為、五十嵐氏により「ハイコウリントンポポ」の和名が提唱されている (小玉ほか, 2011)。なお、従来、ヤナギタンポポ属 *Hieracium* に含まれていたコウリントンポポ類が、近年ではコウリントンポポ属 *Pilosella* として独立させる傾向にあり (米倉, 2007)、本種にも *Pilosella officinarum* の学名がある。

港湾、法面などから確認されており、輸入品目への混入や、法面緑化施工における逸出の可能性が考えられるが、今後詳細な検討が必要である。

採集標本は帯広百年記念館 (OCCM)、重複標本を苫小牧市博物館 (TCM) および北海道大学総合博物館 (SAPS) へ収蔵する。

謝 辞

帯広市の玉井孝明氏には、ハイコウリントンポポの生育情報などを御提供いただいた。同定には、北海道野生植物研究所の五十嵐博氏に御教示を受け、大変お世話になった。苫小牧市博物館の小玉愛子学芸員には、標本閲覧や借用にあたり御尽力を頂いた。記して謝意を表する。

引 用 標 本

ハイコウリントンポポ : *Hieracium pilosella* L. ; *Pilosella officinarum* (L.) F.W.Schultz & Schultz-Bip.
COMPOSITAE (キク科)

Japan, Hokkaido Pref. : Parking of the Obihiro Centennnial City Museum, Midorigaoka2, Obihiro City (帯広市緑ヶ丘 2, 帯広百年記念館駐車場) Aug. 5, 2011, *M. Mochida 1331* (OCCM) ; Parking of the Obihiro Centennnial City Museum, Midorigaoka2, Obihiro City (帯広市緑ヶ丘 2, 帯広百年記念館駐車場) Aug. 6, 2011, *M. Mochida 1332* (OCCM) ; Maruseppu-ikoi-no-mori, Engaru-cho (紋別郡遠軽町丸瀬布いこいの森) July. 30, 2006, *H. Igarashi s.n.* (TCM) ; Sapporo-dome, Hitsujigaoka1, Toyohira-ku, Sapporo-City (札幌市豊平区羊ヶ丘 1, 札幌ドーム) Jun. 16, 2010, *H. Igarashi s.n.* (TCM) ; Harumi Pier, Tomakomai Port, Tomakomai City (苫小牧市苫小牧港晴海埠頭) Jun. 27, 2010, *H. Igarashi & A. Kodama s.n.* (TCM).

OCCM : 帯広百年記念館, TCM : 苫小牧市博物館

引用文献

- Blamey, Marjorie and Christopher Grey-Wilson. 1989. The illustrated flora of Britain and northern Europe, pp.440-441. Hodder & Stoughton, London.
- Bishop, G. F. and A. J. Davy. 1994. *Hieracium pilosella* L. (*Pilosella officinarum* F. Schultz & Schultz-Bip.). Journal of Ecology, 82: 195-210.
- 五十嵐博. 2001. 北海道帰化植物便覧. 北海道野生植物研究所, 札幌.
- 小玉愛子・小山留美・五十嵐博. 2011. 苫小牧市で確認された帰化植物 (概報). 苫小牧市博物館館報, 8: 27-36.
- 清水建美. 2003. 日本の帰化植物. 平凡社, 東京.
- 太刀掛優・中村慎吾. 2007. 改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会, 庄原.
- 米倉浩司. 2009. 高等植物分類表. 北隆館, 東京.



図1. 標本および情報に基づくハイコウリントンポポ *Hieracium pilosella* L. の確認地点

Fig1. Distribution map of *Hieracium pilosella* L.



図 2. ハイコウリンタンポポ *Hieracium pilosella* L.
Fig. 2. A specimen of *Hieracium pilosella* L.



図 3. 野外での生育状況
Aug. 5, 2011 帯広市緑ヶ丘 百年記念館駐車場
Fig. 3. Ecological photo of *Hieracium pilosella* in Obihiro.
Aug. 5, 2011.

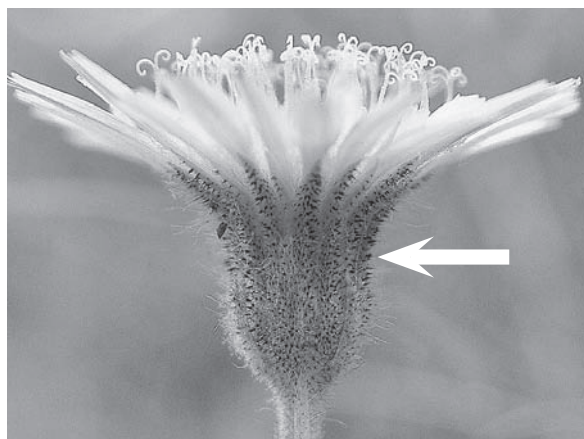
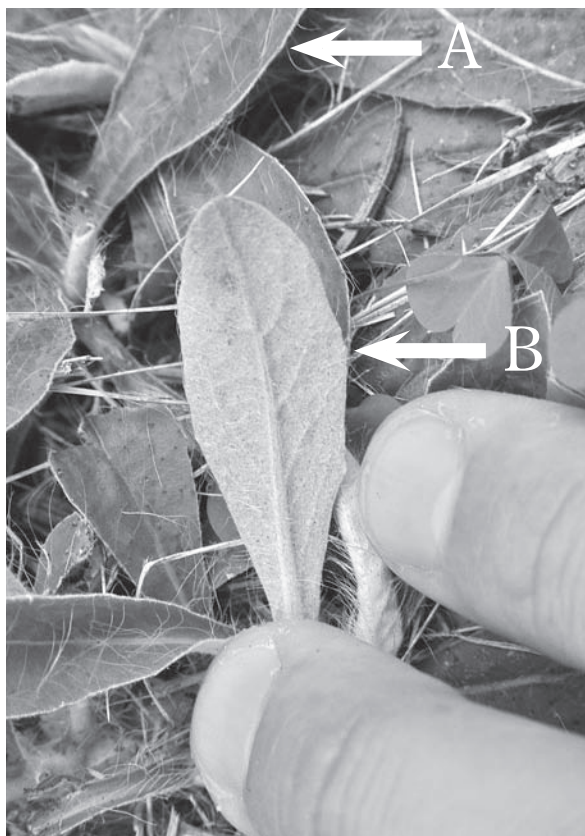


図 5. 総苞片に混生する黒色の微小突起毛の様子

Fig. 5. The outer involucral bracts are covered in black fine hair.

図 4. A : 長毛が散生する葉表面の状態
B : 白色軟毛が密生する葉裏面の状態
Fig. 4. A : Long hair diffuse in the leaf surface.
B : The underside of leaves are covered in white puberulous hair.